

末廣恭雄 すまひろ かつら 水産學者、農藝博士。明治二十七年六月四日東京生れ、昭和二十二年七月十四日没（一九四一六）。昭和四年東京帝國大學農學部水産學科卒。農林省水産試験場技師、能登の七尾分場長を経て十九年東京帝大教授。趣味として童謡などを作曲、また隨筆家として知られ、著書五十餘に及ぶ。末廣鐵腸の孫。



著書 『魚の生活』（昭和十七年六月）二十五年岩波書店「少國民のため」の「」、『魚學』（昭和二十四年二月十日朝日新聞社「朝日新講座」）、末廣鐵腸著『醒の旅行地』の解説、昭和二十五年四月二十日朝日新聞社「朝日文庫」の「」、『魚類學』（昭和二十六年六月）二十七日岩波書店の「」、『魚くまぐまの魚の語』（昭和二十六年八月一日東和社）、『続魚くまぐまの魚の語』（昭和二十七年七月十五日東和社）、『尾籠をりけなひ魚の語』（昭和二十八年八月十五日石崎書店）、『魚の四季』（昭和二十九年五月二十日朝日新聞社「朝日文化手帖」）、『魚の紳士録』（昭和二十一年三月十五日中央公論社）、『サーカス水族館』（昭和二十一年四月二十日河出書房）、『魚と地震』（昭和二十二年八月二十日新潮社）、『エジプトの招き』（昭和二十八年五月二十日角川書店「角川新書」）、『魚の国案内』（昭和二十八年七月十日新潮社）『ポケット・ライブラリ』の『魚と伝説』（昭和二十九年十一月二十日新潮社、再刊、昭和五十一年十二月二十日「新潮文庫」）、『魚の春夏秋冬』（昭和四十二年一月二十一日社会思想社「現代教養文庫」）、『魚の風土』（昭和四十五年一月二十日新潮社）、『サケのハナまがりーさかかな子夜一夜』（昭和四十六年七月一日実業之日本社）、『と

『さかなの魚の話』(昭和四十九年八月十五日新潮社)、『思ひ出の
本』(昭和五十九年十月十五日出版「ニュー入社」)等。

